

吉見百穴魅力再発見事業

—No.49 吉見町—

【事業の目的】

吉見百穴は、古墳時代後期に造られた横穴墓で大正12年に国の史跡に指定されています。太平洋戦争時の軍需工場跡もあり、社会科見学など多くの方が訪れ、過去には年間10万人を超える来場者がありましたが、近年では人口減少、道路網の整備による移動距離の増加などにより来場者が減少しています。その反面、「見た目のインパクト」や「日本のカップドキア」として注目を集め、外国人観光客の増加、テレビ番組で取り上げられるなど、吉見百穴の魅力が再認識されてきています。この機会を逃すことのないように、観光トイレのバリアフリー化や多言語に対応した案内看板、パンフレットを作成し、町を代表する観光拠点である吉見百穴のイメージアップ、新規来場者及びリピーターの増加を図ります。

【事業の内容】

①観光トイレ整備事業

昭和50年代に建てられた既存のトイレを大規模改修し、誰もが気持ちよく利用できるバリアフリートイレへと整備します。

②多言語看板、パンフレット整備事業

外国人観光客のために英語表記の説明看板を設置します。また、既存の英語版だけでなく、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ポルトガル語、タイ語に対応したパンフレットを作成し、多言語で吉見百穴をPRします。

③駐車場整備事業

訪れた方々の安全性や快適性を確保していくため、観光用の大型バスや普通自動車の駐車スペースに加え不足している障害者用専用スペースを整備します。

④百穴絵画コンクール事業

吉見百穴に対する理解と認識を深め、広く百穴をPRしていく取組を行うことを目的に、小学校5・6年生及び中学生を対象にした「百穴絵画コンクール」を開催します。優秀作品は、イベントポスターや観光カレンダーに掲載していきます。

⑤社会科見学コース案内事業

小学校の社会科見学のコースとして「百穴見学」及び埋蔵文化財センターの「勾玉づくり体験」を取り入れてもらうため、県内市町村の小中学校にパンフレットを作成・配布します。

【事業年度】

令和2年度

【予算額(千円)】

23,550千円

【財源】

ふるさと創造資金(県)

【事業実施に至った背景・経緯】

吉見百穴にあるトイレは、昭和50年代に建てられたものであったため、バリアフリートイレへと整備することとなりました。

また、近年増加している外国人観光客のため、英語表記の説明看板や多言語のパンフレットを作成することとしました。

【事業のPRポイント】

バリアフリートイレや駐車場の区画線整備より、多くの観光客にとって利用しやすい施設となります。また、多言語に対応したパンフレットを作成することにより外国人観光客が訪れやすく、インバウンドに対応できる施設となります。

【事業実績・成果・今後の展開】

多言語パンフレットが活用され、多くの国で吉見百穴の歴史や特徴が広まり、口コミ等により来場者及びリピーターの増加が期待されます。

絵画コンクールによって、児童生徒による吉見百穴に対する理解と認識を深め、観光資源PRの一翼を担い、郷土愛の醸成が図られます。

